

農業・農地に関するアンケート調査結果（概要）

1 調査目的

農家の経営状況はもとより、後継者の有無や、今後の農地利用のなど、農家の実情や意向を把握した上で、人・農地問題の解決に向けた糸口を探る。

2 結果概要（主なもの）

（1）基本情報

区分	R 5 (今回)	H 2 9 (前回)	増△減
対象数	1,395 人	1,343 人	52 人
回答数	675 人	929 人	△254 人
回答率	48.4%	69.2%	△20.8 P
平均年齢	70.1 歳	67.5 歳	2.6 歳

（2）現在の経営状況

区 分		R 5	H 2 9
経営の概況	自家消費(販売なし)	271 人(40%)	388 人(42%)
	自ら耕作し販売	131 人(19%)	156 人(17%)
	他人の農地を作業受託	86 人(13%)	85 人(9%)
	全農地を貸出又は委託	77 人(11%)	79 人(9%)
後継者の有無	後継者の目処あり(決まっている)	150 人(22%)	223 人(24%)
	後継者の目処なし(未定・不明)	278 人(41%)	649 人(70%)
	後継者となり得る者なし	230 人(34%)	

（3）今後の経営意向

区 分		R 5	H 2 9
経営規模	現状を維持したい	230 人(34%)	333 人(36%)
	近い将来農業をやめたい	128 人(19%)	155 人(17%)
	規模を縮小したい	73 人(11%)	98 人(11%)
	規模を拡大したい	7 人(1%)	9 人(1%)
所有農地の貸借	当面は自分で耕作(貸す予定なし)	307 人(45%)	433 人(47%)
	貸したい農地あり	195 人(29%)	266 人(29%)
	他人には貸したくない	37 人(5%)	49 人(5%)

3 まとめ

前回よりも回答数が減少したものの、全般的な傾向（割合）に大きな変動はない。

作業受託の割合が増加傾向にあるのは、自分で耕作できない農地が増加しつつあることの証左であると思われる。

依然として厳しい状況が続いているものの、農家の2割以上に後継者の目途があることが希望的な結果として現れている。

今後も、関係機関と連携しながら、農地利用の最適化（耕せる農地を、耕せるうちに、耕せる人につないでいく）を推進していくことが大きな課題である。